

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名	: 酸化カルシウム
会社情報	
会社名	: 関東化学株式会社
住 所	: 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 2-2-1
担当部門	: 試薬事業本部 企画管理部 資料課
電話番号	: (0120)260-489
FAX番号	: (03)3241-1047
メールアドレス	: BC32@kanto.co.jp
整理番号	: 07087
推奨用途	: 試験研究用
使用上の制限	: 推奨用途以外で使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康有害性	皮膚腐食性／刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 1（呼吸器）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 1（呼吸器）

絵表示



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 皮膚刺激
重篤な眼の損傷
臓器の障害（呼吸器）
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害（呼吸器）

注意書き

安全対策	: 粉じんを吸入しないこと。 取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
応急措置	: 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。 直ちに医師に連絡すること。 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
保管	: 施錠して保管すること。

廃棄：内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：物質
別名：生石灰

化学名	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
酸化カルシウム	≥ 97	CaO	1-189	既存化学物質	1305-78-8

＊濃度：強熱後。

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合：直ちに新鮮な空気の場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。
皮膚に付着した場合：直ちに付着部を多量の水で十分に洗い流す。
眼に入った場合：直ちに流水で15分間以上洗い流し、眼科医の処置を受ける。
飲み込んだ場合：水で口の中を洗浄し、コップ1-2杯の水または牛乳を飲ませる。直ちに医師の処置を受ける。無理にはかせてはならない。
応急措置をする者の保護：救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状/損傷：吸入すると、灼熱感、咳、息切れ、咽頭痛を起こす。

5. 火災時の措置

適切な消火剤：この製品自体は、燃焼しない。
使ってはならない消火剤：水
火災危険性：1/3重量の水と混合すると100-300℃に発熱し、可燃性物質に着火することが可能になる。
消火方法：速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器および周囲に散水して冷却する。
消火を行う者の保護：消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置：作業の際は適切な保護具を着用し、飛散したものなどが皮膚に付着したり、粉塵を吸入しないようにする。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項：流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法：飛散したものは掃き集めて空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：皮膚に付いたり、粉塵を吸入しないように適切な保護具を着用する。
安全取扱注意事項：みだりにエアロゾル、粉塵が発生しないように取扱う。

保管

- 安全な保管条件： 容器は密栓して冷暗所に保管する。
- 安全な容器包装材料： ガラス、ポリエチレン、ポリプロピレンなど。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない
産衛学会 許容濃度	設定されていない
ACGIH TWA	2 mg/m ³

- 設備対策： 粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。

保護具

- 呼吸用保護具： 必要に応じて防じんマスクを着用する
- 手の保護具： 不浸透性保護手袋
- 眼の保護具： ゴーグル型保護眼鏡
- 皮膚及び身体の保護具： 保護衣（長袖作業衣）、保護長靴、保護服等

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態： 固体
- 色： 白色 - 淡灰色
- 臭い： 無臭
- pH： 水溶液は強アルカリ性を呈す。
- 融点： 2572 ° C
- 凝固点： データなし
- 沸点： 2850 ° C
- 引火点： データなし
- 自然発火点： データなし
- 分解温度： データなし
- 可燃性： 不燃性
- 蒸気圧： データなし
- 相対密度： 3.37
- 密度： データなし
- 相対ガス密度： データなし
- 溶解度： 水：可溶（加水分解）。有機溶媒： エタノールに不溶。
- n-オクタノール/水分配係数（log Pow）： データなし
- 爆発限界（vol %）： データなし
- 動粘性率： データなし
- 粒子特性： データなし

10. 安定性及び反応性

- 反応性： 湿った状態あるいは高温では塩素、硫化水素、二酸化炭素、二硫化炭素、過酸化窒素とよく反応するが、水酸化カルシウムを含まないよく乾燥したものは反応しない。
- 化学的安定性： 通常条件で安定である。湿った空気中では、水分と二酸化炭素を吸収し、水酸化カルシウム及び炭酸カルシウムを生ずる。

危険有害反応可能性	: 水と反応すると激しく発熱し水酸化カルシウムを生ずる。
避けるべき条件	: 日光、熱、水分。
混触危険物質	: 水、酸。
危険有害な分解生成物	: 水酸化カルシウム。

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	: 区分に該当しない ラット LD50=5000mg/kg
急性毒性（経皮）	: 分類できない
急性毒性（吸入）	: 区分に該当しない（気体） 区分に該当しない（蒸気） 分類できない（粉じん、ミスト）
皮膚腐食性／刺激性	: 皮膚刺激 湿った皮膚に対して強い刺激性を示すとの記載から区分 2 とした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 重篤な眼の損傷 粒子状酸化カルシウムが眼に重度のやけどを引き起こす可能性があるとの記載から、区分 1 とした。
呼吸器感作性	: 分類できない
皮膚感作性	: 分類できない
生殖細胞変異原性	: 分類できない In vivo のデータはなく、in vitro では細菌の復帰突然変異試験で陰性である。
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 臓器の障害（呼吸器） 本物質は水と反応して水酸化カルシウムを生じる。ヒトでは大量の水酸化カルシウムの短時間ばく露により肺水腫とショックを起こすとの記載がある。以上より区分 1（呼吸器）とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害（呼吸器） ヒトにおいて、生石灰の吸入による呼吸経路の炎症、鼻中隔の潰瘍及び穿孔の報告がある。したがって、区分 1（呼吸器）とした。
誤えん有害性	: 分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期（急性）	: 分類できない
水生環境有害性 長期（慢性）	: 分類できない

残留性・分解性

追加情報なし

生体蓄積性

追加情報なし

土壤中の移動性

追加情報なし

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性	: 分類できない
-----------	----------

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 大量の水に少量ずつ溶解し、酸で中和し処理する。水に溶解させる時
-------	-----------------------------------

には発熱するので十分注意をする。
または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。
汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送 (IMDG)

国連番号 (IMDG) : 1910
正式品名 (IMDG) : CALCIUM OXIDE
容器等級 (IMDG) : III
輸送危険物分類 (IMDG) : 8

航空輸送 (IATA)

国連番号 (IATA) : 1910
正式品名 (IATA) : Calcium oxide
容器等級 (IATA) : III
輸送危険物分類 (IATA) : 8

海洋汚染物質 : 非該当

国内規制

陸上規制 : 消防法、毒物及び劇物取締法、道路法の規定に従う。
航空規制情報 : 航空法の規定に従う。
その他の情報 : 補足情報なし
緊急時応急措置指針番号 : 157

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第 5 7 条第 1 項、施行令第 1 8 条第 1 号、第 2 号別表第 9)
名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第 5 7 条の 2、施行令第 1 8 条の 2 第 1 号、第 2 号別表第 9)
酸化カルシウム (政令番号 : 190)
名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第 5 7 条第 1 項、施行令第 1 8 条第 2 号～第 3 号、安衛則第 3 0 条別表第 2) (2025 年 4 月 1 日以降)
名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第 5 7 条の 2 第 1 項、施行令第 1 8 条の 2 第 2 号～第 3 号、安衛則第 3 4 条の 2 別表第 2) (2025 年 4 月 1 日以降)
酸化カルシウム
皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質 (安衛則第 5 9 4 条の 2 第 1 項、令和 4 年 5 月 3 1 日基発 0 5 3 1 第 9 号、令和 5 年 7 月 4 日基発 0 7 0 4 第 1 号・4 該当物質の一覧)
毒物及び劇物取締法 : 非該当
消防法 : 貯蔵等の届出を要する物質 (法第 9 条の 3・危険物令第 1 条の 1 0)
船舶安全法 : 腐食性物質 (危規則第 2, 3 条危険物告示別表第 1)
航空法 : 腐食性物質 (施行規則第 1 9 4 条危険物告示別表第 1)
港則法 : その他の危険物・腐食性物質 (法第 2 1 条第 2 項、規則第 1 2 条、危険物の種類を定める告示別表)
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) : 非該当

16. その他の情報

参考文献

- : 化学大辞典 共立出版社 (1963)。
Dangerous Properties of Industrial Materials, 6th ed.
N. I. Sax 他編 Van Nostrand Reinhold Company (1984)。
17322 の化学商品、化学工業日報社 (2022)。
NITE 化学物質総合情報提供システム (NITE-CHIRP)、独立行政法人製
品評価技術基盤機構。

*この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには充分注意して下さい。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。また、含有量、物理/化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。この安全データシート(SDS)は、JIS Z7253 に基づいて作成しております。